

◆ 今週のコメント

- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.24(51例)で、前週(1.29, 53例)よりわずかに減少していますが、依然として例年のピークを上回る状態で推移しています。年齢群別では、すべて2歳以下からの報告で、6箇月～11箇月が15例(29.4%)と最も多く、次いで1歳 14例(27.5%)、2歳 13例(25.5%)、0箇月～5箇月 9例(17.6%)となっています。今後の動向にご注意ください。
- 水痘の定点当たり報告数は0.51(21例)で、前週(0.44, 18例)に比べ増加し、過去5年平均値を上回っています。すべて7歳以下からの報告です。例年、この時期から12月に向かって報告数が増加しますので、今後の動向にご注意ください。

◆ 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、4.17(171例)で、3週連続で増加するとともに、過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 371例(肺結核 154例, その他結核 78例, 潜在性結核感染者 139例)うち喀痰塗抹陽性 75例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.17	171
	② RSウイルス感染症	1.24	51
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.66	27
	④ 水痘	0.51	21
	⑤ 突発性発しん	0.39	16
眼科	流行性角結膜炎	1.00	10

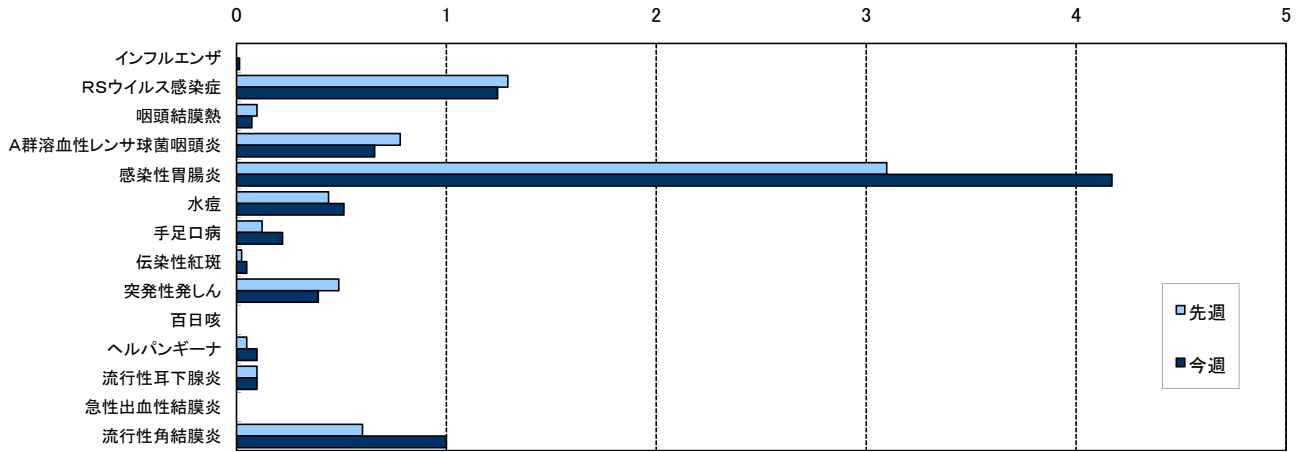
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

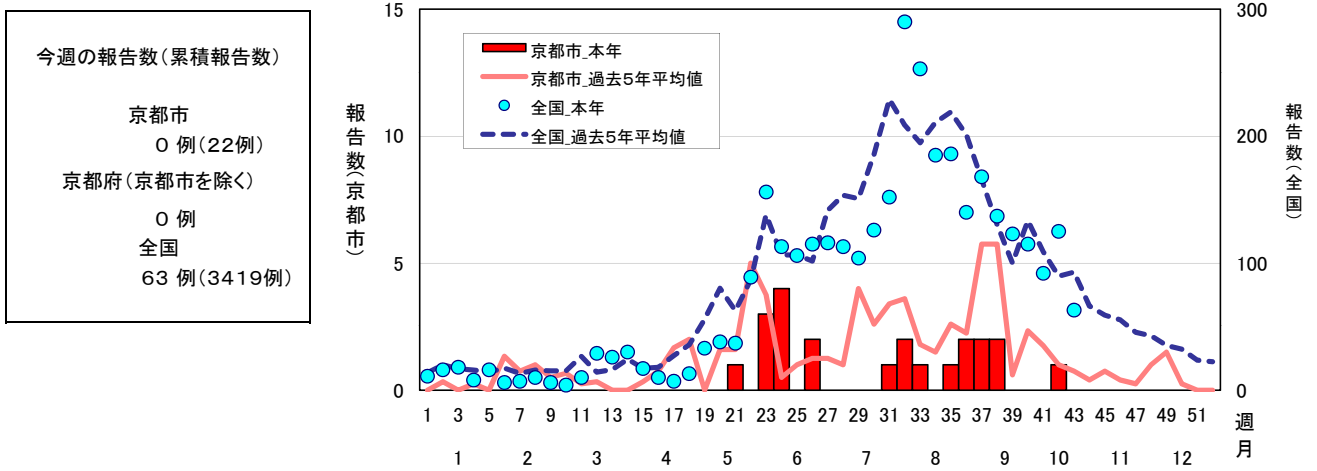
(注)京都市のデータは、平成24年11月1日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第43週)と先週(第42週)の定点当たり報告数の比較

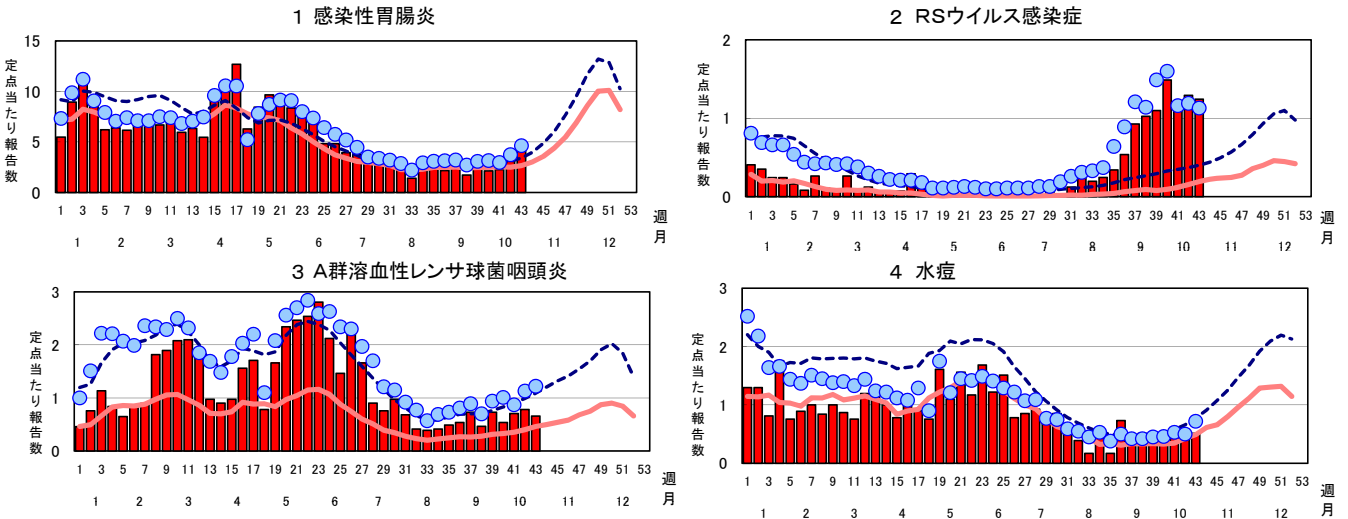


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

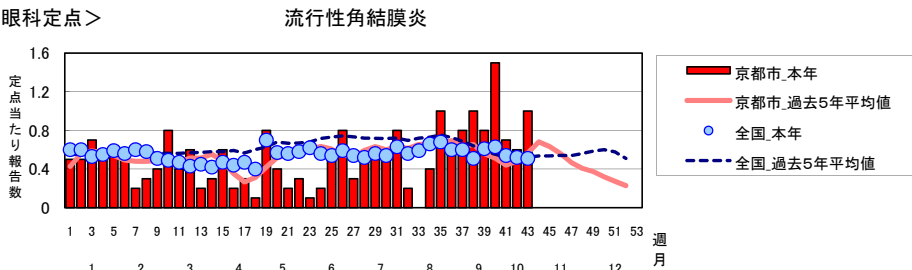


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第43週(10月22日～10月28日)トピックス: <感染性胃腸炎>

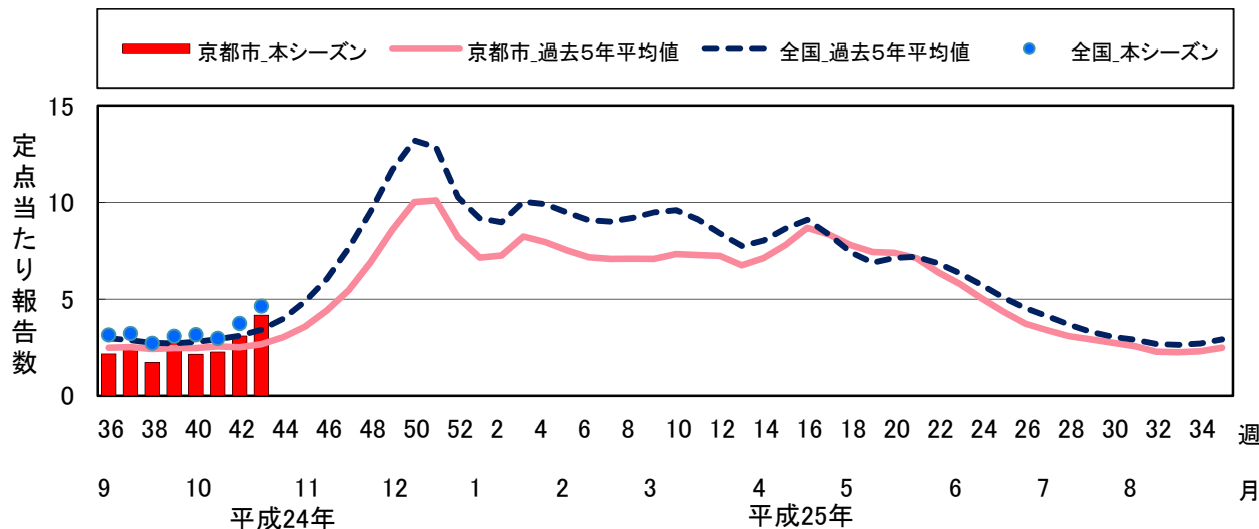
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、4.17(171例)で、3週連続で増加するとともに、過去5年平均値を上回っています。例年、冬にかけて報告数が増加しますので、今後の動向にご注意ください。

都道府県別では、38都道府県で前週より増加しており、そのうち5県(新潟県、石川県、和歌山県、高知県、長崎県)は前週の1.5倍以上となっています。

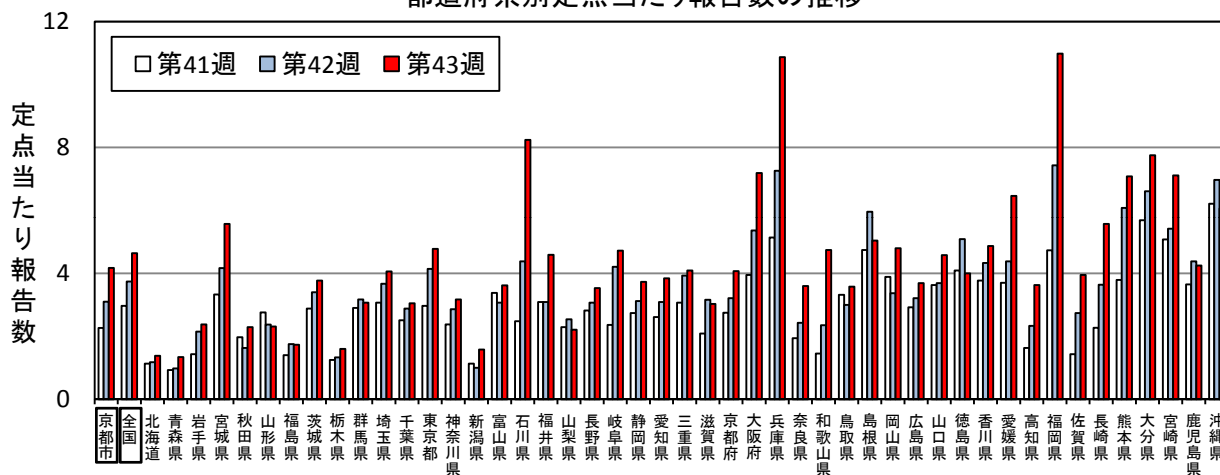
年齢階級別では、各年齢層から報告があり、1歳が37例(21.6%)と最も多くなっています。

京都市衛生環境研究所に10月に搬入された集団発生の検体から、ノロウイルスG I (1事例)、G II (1事例)を検出しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移

